

普及だより

産業振興課	〒798-8511	宇和島市天神町7-1	TEL:0895-28-6145	Fax:0895-22-1881
鬼北農業指導班	〒798-1331	鬼北町大字興野々1880	TEL:0895-45-0037	Fax:0895-45-3152
愛南農業指導班	〒798-4196	愛南町城辺甲2420	TEL:0895-72-0149	Fax:0895-73-0319

農業生産法人(有)ワールドファーマーズがグローバルGAP認証取得

平成29年11月8日、宇和島市吉田町の農業生産法人(有)ワールドファーマーズ(代表取締役: 森崎 正)が、同社の水稲部門(宇和島市吉田町・三間町及び鬼北町の28ha)でグローバルGAP認証機関「フードプラス(ドイツ)」の判定部門SGS Indiaを通じてグローバルGAPの認定書の交付を受けました。

GAPとは、「Good Agricultural Practice(適正農業規範)」の略で、農業生産の各工程において、適正な生産環境の確保とリスク分析を行い、危害の発生に対して事前に対応と対策を行うことで安心できる農産物の生産を行う(農業生産工程管理)ことを言います。

国・県ではGAPの実施と認証の取得を進めており、GAP認証の取得を支援しているところですが、県下では現在までにミヤモトオレンジガーデン(八幡浜市)、フジファーム(大洲市)、真穴柑橘共撰部会の1人(八幡浜市)がグローバルGAPの認証を取得しており、今回初めて水稲部門での取得となります。

ワールドファーマーズでは、コンサルタント派遣や審査費用を補助する国の事業を活用して、今回のグローバルGAP認証の取得に至りました。今後は本認証の取得を通じて独自ブランド「伊達米」の品質向上に結び付け付加価値を高めていくとともに、将来的には精米卸売業者を通じた輸出への取組みも目標としているそうです。

県においてもグローバルGAPに加えて今年から県版GAPが始動し、更なるGAP取得を推進していくこととしており、農産物の新たな販路開拓や東京オリンピック・パラリンピックへの食材提供を希望する生産者の取組みを支援していくこととしています。

※県版GAP:エコえひめ認証農産物(特別栽培農産物)のうち、県が定めた生産工程管理基準(県GAP認証基準)のすべてに適合する生産過程により生産された農産物であることを県審査会が認めたもの。



【森崎社長(右)とGAP認定書を示す清家水稲部門長(左)】



“媛なんFガールズ”が魅力ある農業環境を考える！

宇和島地区農業改良普及事業推進協議会（事務局：地域農業室）は、若い柑橘女性農業者（愛称：媛なんFガールズ）と共同で農作業環境の改善に取り組んでいます。

昨年4月よりワークショップや講習会等を6回実施し、農作業の労力軽減やスタイリッシュでファッションブルな農業の実践を目指してきました。また、収穫期の4か月間、きれいで清潔な簡易水洗トイレを樹園地に試験的に設置しました。トイレは高齢者にも使いやすい洋式で、土足厳禁として利用状況を調査しました。利用した“媛なんFガールズ”のメンバーからは、「清潔で使いやすい。トイレが園地の近くにあると作業時間の短縮にもなっている。」と好評で、地域の農家やアルバイトからも喜んでもらいました。

当協議会は、今後も女性や若者が参画しやすい魅力ある農業・農村環境への改善を後押ししていきます。



【設置したトイレをチェックする
“媛なんFガールズ”】

女性楽農講座の受講で楽しみながら農業を

鬼北農業指導班では、松野町・鬼北町の農家女性の方に、農家経営や農村社会への理解をさらに深めてもらうと共に、情報交換の場にしてもらおうと「女性楽農講座」を開催しています。

今年度は7月に主な野菜や水稻の病気の種類とその対策などについて知識を深め、11月に紫外線や外気に触れる機会の多い農家女性が若々しく作業できるようスキンケアについて学びました。

平成26年度から女性経営参画支援講座の一環として開催している講座では、農家レストランや農家民宿の経営についての視察研修、農業機械の実習や異業種の活動視察をしてきました。

同講座は来年度にも開催を予定していますので、関心のある方は、鬼北農業指導班へ御連絡下さい。



【女性楽農講座でのスキンケア講話】

最新鋭農業機械を駆使した大規模農業経営を学ぶ

愛南町認定農業者協議会（吉田浩会長、82人）は、昨年12月に町内で現地研修会を開催しました。近年管内では柑橘の大規模経営が増えつつあることから、中でも最大規模の経営面積26haの（株）みかん職人武田屋を訪問し、最新鋭農業機械の活用現場を見学しました。所有ドローンによる映像を利用した肥培管理法やラジコン式草刈機による株元などの狭小な空間の作業の操作実演に加え、腐敗果などの生ごみを短期間に分解する処理施設の特徴を学びました。

参加者は、各機械を交互に操作し合いながら、それぞれの性能を確認しつつ共同購入による導入も検討したいとの意見もありました。

町内認定農業者で法人設立手続中も2戸あることから経営拡大と併せ、過剰投資とならないよう適正な資本装備を指導支援していきます。



【ラジコン式草刈機操作実演】

「にゃんよ弁当」地産地消メニューで農政局長賞！

企業組合津島あぐり工房(宇和島市)の製造する「にゃんよ弁当」が、農林水産省主催の「第10回地産地消給食等メニューコンテスト」で中国四国農政局長賞を受賞しました。

「にゃんよ弁当」は、南予地方局の「南予地域異分野生産者交流会」において、管内農林水産物のPRを目的に開発された行楽弁当で、あこや貝メインの「あこやめし」と鯛メインの「鯛めし」の2種類があり、南楽園の梅まつりなど、主にイベント時に販売されています。

受賞にあたっては、「にゃんよ弁当」における南予産食材の使用率や、食材調達における生産者との連携が評価されるとともに、津島あぐり工房の取り組む地産地消カフェ(あすも)の運営や、「ふるさと小包」の販売、精力的な商品開発など、南予の食・食材の魅力発信についての活動も高く評価されました。



【表彰式の様子(カフェあすも内)】

日本農業遺産への認定に向け取り組んでいます！！

本県の柑橘主要産地である南予地域においては、従前より「太陽からの直射日光」「海面からの照り返し」「石積みからの輻射熱」のいわゆる3つの太陽を活用した柑橘農業が行われています。

先人たちが血のにじむような努力で山を切り開き今日まで守り続けてきたこの農業システムを、後世に承継していくとともに、地域住民の自信と誇りの創出などを目的とし、平成28年度より、「愛媛・南予の柑橘農業システム」の「日本農業遺産」への認定に向け取り組んでいます。

本県の柑橘は、品種、生産量とも日本一を誇るのみならず、地域に根差した伝統的な食文化や祭りなどの農村文化、みかん園地が創り出す壮大な景観は、いずれも世界に誇るべきものであり、平成30年度の認定に向け、管内各地で勉強会やシンポジウムを開催するなど、地元の機運醸成・認知度向上に向け取り組んでいるところです。南予の優れた農業資源を後世に残すべく、南予地方局では、内外への情報発信に努めるとともに、南予地域の農林水産物のブランド化など、地域活性化にも取り組んでいきたいと考えております。



【シンポジウム開催(愛南町)】

愛媛県食品表示ウォッチャーの活動について

愛媛県食品表示ウォッチャー制度は、一般消費者の方に食品の表示状況のモニタリングを行っていただき、食品表示の適正化を図ることを目的としています。現在、南予地方局管内では21名の食品表示ウォッチャーが活動されています。

食品表示ウォッチャーの主な活動内容は、日常の購買行動を通じて確認した食品表示の状況についての報告や疑問に思う点の連絡、その他表示に関する情報の提供です。

提供された情報のうち、違反の疑いがあるものについては、産業振興課が確認調査を実施し、不適正な表示を行っている場合は食品関係事業者に対して指導を行っています。

日本一の河内晩柑産地の活性化に向けて

河内晩柑は、昭和40年代から県内に導入が進み、現在、宇和島圏域は愛南町を筆頭に全国一の生産量を誇ります。ジューシーで爽やかな味もさることながら、近年は機能性の面からも注目されています。

松山大学は河内晩柑果皮のオーラプテン含量が、他の柑橘に比べて特異的に高いことを明らかにし、オーラプテンが脳に移行して、脳内で抗炎症作用を示すことを発見しました。そこで県が、松山大学、愛媛大学と共同で、河内晩柑に含まれる機能性成分(オーラプテン)を利用した食品の研究・開発を行った結果、河内晩柑果汁飲料の摂取が、ヒトの認知機能維持・改善に効果があることが明らかになりました。なお、開発した果汁飲料は(株)えひめ飲料が商品化を検討しています。

南予地方局では、生産・消費拡大、農業者の所得向上を図るため、みかん研究所等と連携し、果実特性の把握や、減収につながる果皮障害及び落果軽減対策に取り組むとともに、機能性成分を生かした商品開発支援や販売促進など総合的な支援によって、河内晩柑産地のさらなる活性化を目指します。



【機能性成分は果皮に多く含まれています】

管内ブロッコリーの産地拡大中！

宇和島圏域では、愛南町、宇和島市津島町を中心にブロッコリーの栽培が行われており、10月から6月までの長期間にわたり収穫が行われています。また、JAえひめ南による共同選果・氷づめ出荷により高品質が維持され、市場での評価も高く、県内最大の産地となっています。

本年度は、これまで共選・共販が行われてこなかった鬼北町及び宇和島市三間町において、水田を有効利用したブロッコリー栽培の推進を行い、新たな産地確立による管内ブロッコリー産地規模拡大に向けた働きかけを行いました。

栽培については、関係機関と連携し、鬼北町・三間町の新規就農者や若手農家、水稻栽培者等に働きかけ、鬼北町で2名、三間町で5名の新規栽培者を掘り起こすとともに、品種の選定、栽培技術向上支援を行いました。また、作業の効率化、高品質化を目的に、JAえひめ南による同地区内での共同選果・氷づめ出荷体制の整備を支援しました。

産地育成室は関係団体と連携し、管内の水田高度利用推進によるブロッコリー産地拡大を支援するとともに、栽培品種、施肥技術、病虫害防除等の技術実証を精力的に行い、産地のさらなる生産技術向上のための支援を行っていきます。



【拡大するブロッコリー栽培面積】